

門。自龜坂水門至石引町水門三百四十間四尺。自石引町水門至學校外升形五百四十三間四尺。學校境内水道七十間。學校升形中八間四尺。自是至蓮池也。凡自上辰巳河口遠此所。行程二里四十四間也。雖圖秘姑載之。

○蓮池堀

此の堀を今俗に百間堀と呼べり。蓮池の名は、昔城地に本源寺有りし頃、僅かなる溜池にて、其の比蓮池となしたりし遺稱なりと云ひ傳へたり。關屋政春古兵談に云ふ。金澤城蓮池の堀は、昔は瀨堀にて、高石垣の所も切立ての土手也。佐久間玄蕃居住の時、才川の奥日尾見定と云ふ處、玄蕃思の儘に廻り兼ねる。或時、玄蕃彼城餘り手淺に候間、堀普請を山中の者共に頼み度しといふ。心得申すとて、究竟の者共三百人許來て堀普請をする。然る處奥村河内屋敷の方と本丸の方より取包之、四方よりさしゑろして残らず討殺す。骨ごわの者皆討たれて、それより山内治ると云ひ傳へたりと。又云ふ。尾山城は其初小立野の尾崎を堀り斷ち、是に築く。其堀切は、今奥村伊豫屋敷と城との間の蓮池なり。高石垣の所も切立の土手也。蓮池より堂形の

方へ押回る角に古への清水あり。金銀の雲母浮ぶ。是を金澤と云ふ。其頃は蓮池は瀨堀也と云ふ。有澤武貞朱書に云ふ。辰巳水道出來してより、水かゝるなり。とあり。按ずるに、佐久間玄蕃石川那日尾見定の邑民をして蓮池堀を掘らしめたるは、天正八年入城以後にて、十一年四月玄蕃滅亡以前の事なるべし。奥村河内屋敷或は伊豫屋敷とあるは、皆後の名稱を以て記載せしもの也。三州志の註にも、伊豫第とあるは、後の第地に非ず。今の學校の地に、元祿九年まで有りし第を指すなり。といへり。今の學校の地とは、今金澤神社の地邊也。又今百間堀と稱すれど、三州志來因概覽附錄に、蓮池壕の長さ百五十間、幅石川門の方三十間也。夫より東へかけ次第に幅狭くなる。といへり。又按ずるに、此の堀の傍なる往來脇の地を古來蓮池と呼べり。往昔蓮池の遺蹟は此の地にて、此の邊りなる塹なるにより蓮池堀と稱する歟といふ説あり。但し富田景周の蓮池考には、蓮池の地は古來よりの名に非ず。塹の名に蓮池あり。其の邊りにある地なる故に、後人此の地を蓮池と晉にて唱へ、蓮池堀と其の名を分つよし也。此の塹は古へ本源寺の

頃より空壕也。寛永九年微妙公、辰巳水道を開通せらるゝより水塹となるよし、關屋政春古兵談に記せり。といへり。

○新丸

此の曲輪は、三ノ丸升形門の外、尾坂門内の一曲輪をいへり。參議中將綱紀卿の時、新丸と云ふ所に離罷在哉の旨等問し給ふに付き、有澤彌三郎致貞より一覽に供したる金澤城古圖の寫に、富田越後等の居第を記載し、付札に此の邊を新丸と申す由とあり。三州志來因概覽附錄に云ふ。新丸は作事所の境内となす圖もあれども、按ずるに必ず此の境内のみに限らず、惣て今云ふ尾坂門より八十七間の内を新丸と云ひし体なり。此の廓は慶長四年の新築ゆゑ、新丸の號ある成るべしと云々。平次按ずるに、慶長四年に此の新丸を更に出丸となし城郭内とせられしは、慶長四年閏三月利家卿薨去、同年八月利長卿大坂を發し、九月歸國し給ふ處、大坂に於て加賀陣の浮説起り、既に加賀征討の内命ありし頃に、高山南坊利長卿の命を奉じ、大手先を張り出したるもの也。三州志體餘考に云ふ。慶長四年己亥閏三月三日、國祖攝津州大坂城の高邸に薨す。瑞龍公八月廿八日

浪華を發し、金澤に還城也。冬十月浪華に於て加賀侯反して出師の巷説紛如たり。我が國へも上國の打手向ふの流聞頻り也。因つて高山南坊長房に命じ、金城下の練垣を修し、内塹を疏鑿して要害を設く云々。自註に云ふ。頃者瑞龍公、越中富山邊を巡見し給ふ所へ細川忠興より密書到來、此の度大坂騒ぎの次第を告ぐ。公披見有つて即日金澤へ歸城、老臣と之を議し、即ち南坊に命じて城練垣を修し、内壕を設くるなり。相傳ふ。是土普請にて、二十七ケ日にして成ると云ふ。且此の餘諸器械・雪中櫓の支度まで盡く成りて、防戦の備へ専らなりしとあり。内壕は即ち今の内惣構是なり。といへり。青地禮幹の本藩略譜に云ふ。慶長四年八月二十八日歸藩至金澤城。今茲冬十月。訛言公謀叛。東照君將討之。乃使横山長知説焉。得解。東照君要質。於是太夫人高島氏及奮勳之臣村井長頼・山崎長郷質。守伏見城矣。明年五月廿日。東照君強使太夫人質。於其封國武州江戸。六月三日至于江戸。長頼・長郷亦從焉。按ずるに、此の時の情實は、村井長明の象賢紀略に巨細に記載す。

○淨土宗光覺寺舊地